

人材養成目的

知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成します。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的活動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指します。

知識情報・ 図書館学類

College of Knowledge
and Library Sciences

学士(図書館情報学)

■ Bachelor of Arts in Library and Information Science

人材養成目的

知識や情報を活用する能力を育み、関連する社会制度と技術の専門教育を行います。これらの教育を通じて、知識資源の形成、加工、流通、利用の発展に寄与する専門家と人間、社会、技術にわたる総合的視野や問題解決能力を持った職業人を育成します。

求める人材

知識スペシャリストにふさわしい豊かな発想と表現力をもった人材、知識ゼネラリストにふさわしい論理的思考力とコミュニケーション力をもった人材を求めます。

卒業後の進路

知識資源の形成、加工、流通、利用に関する仕事はあらゆる職種に存在しており、本学類の卒業生は、知識スペシャリストとしてその力をいかんなく発揮しています。また、知識基盤社会を支えるには人間、社会、技術にわたる広い視野が不可欠であり、知識ゼネラリストの出番が増えています。さらに、知識共有現象は学問対象として魅力的であり、大学院に進んで研究者を目指す人もいます。

大学院進学 の例

■筑波大学大学院…人間総合科学学術院人間総合科学研究群情報学学位プログラム、理工情報生命学術院システム情報工学研究群情報理工学位プログラム、グローバル教育院(一貫制博士課程)
 ■他大学大学院…広島大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、立命館大学大学院

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…日本放送協会(NHK)、朝日新聞社、テレビ東京、西日本新聞社、紀伊國屋書店、丸善雄松堂、くまざわ書店、パピレス、読売広告社、DNPメディア・アート、DMM.com
 ■情報・通信…NTTドコモ、NTTデータ、NTTコミュニケーションズ、KDDI、ヤフー、ソフトバンク、日本電気、富士通、富士通ゼネラル、富士ゼロックス、富士ゼロックスアドバンステクノロジー、日立製作所、京セラコミュニケーションシステム、サイバーエージェント、Twitter UK、ナビタイムジャパン
 ■コンサル…アクセンチュア
 ■商社・流通…楽天、丸紅、内田洋行、トーハン、図書館流通センター(TRC)、ファーストリテイリング、カスミ、ローソン
 ■運輸・旅行…ANAウイングス、九州旅客鉄道、阪急阪神ホールディングス
 ■金融・保険…ゆうちょ銀行、三菱UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、りそな銀行、常陽銀行、八十二銀行、大和証券、日本生命、損保ジャパン日本興亜保険サービス
 ■サービス…リクルートホールディングス、広芸インテック、東京ドームホテル、河合塾
 ■製造販売…トヨタ自動車、資生堂、YKK
官庁・自治体・図書館・学校等
 厚生労働省、東京国税局、国立印刷局、国土交通省、青森県、岩手県、宮城県、茨城県、神奈川県、島根県、愛媛県、長崎県、北広島市、喜多方市、宇都宮市、坂東市、牛久市、水戸市、つくば市、柏市、市川市、板橋区、武蔵野市、静岡市、藤枝市、沼津市、浜松市、小松島市、福山市、東京都立図書館、香美市立図書館、宇治市立図書館、筑波大学、岩手大学、新潟大学、東京大学、東京学芸大学、横浜国立大学、信州大学、福井大学、京都大学、秋田県立大学、筑波大学附属高等学校

教育の質の保証と改善の方策

教育の質の保証に関する考え方と方策

本学類は、無計画に修得単位数を増やすことよりも、受講する科目で高い到達度を得ることを期待しています。クラス担任や指導教員には、定期的に学生と面談することを義務づけ、学修指導にGPAを活用しています。初年度からPROG (Progress Report On Generic Skills) テストを実施することで、学生は自身の強みや弱点を理解し、大学での人間形成の方向性を考えることができます。3年次ではTOEICを受験し、グローバル社会に備えます。

教員の教育力向上の方策

- 学生による授業評価を実施しています。
- 受講者数および成績分布の調査を公表しています。
- シラバスの内容を点検しています。

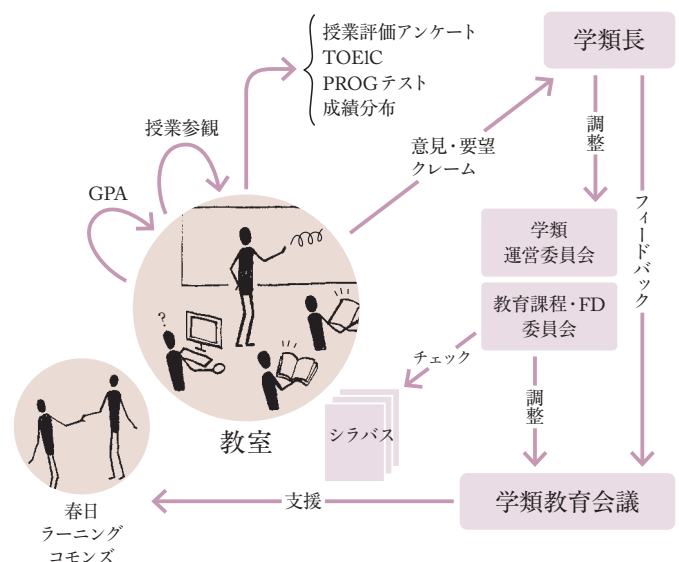
教育改善のための体制

教育課程・FDグループでカリキュラム全般に関する企画・実施を行っています。

カリキュラム改善の方策

教育課程・FDグループが中心となって、科目間の内容調整など、カリキュラムの内容の定期的な見直しを行っています。

学修環境の整備と教育力向上のサイクル



学士（図書館情報学）

Bachelor of Arts in Library and Information Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ情報学群知識情報・図書館学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（図書館情報学）の学位を授与します。

■ **文理融合型基礎の獲得**：情報学分野に関する文理にわたる幅広い基礎知識と視野を獲得していること

■ **知識共有現象の理解**：知識を生成・加工・蓄積・伝達・利用する知識共有現象を多様な学問的観点から理解していること

■ **調査研究能力**：量的調査、質的調査、統計解析などのさまざまな調査分析手法を習得し調査研究を遂行できること

■ **知識基盤構築能力**：情報技術を駆使して知識資源やデータ基盤を形成・活用する能力を有していること

■ **知識伝達能力**：さまざまな情報源から適切な情報を検索し蓄積された知識を適切に加工・表現して伝達する能力を有すること

■ **多様性の理解と倫理性の獲得**：文化や価値観の違いを理解し、倫理観と公共心を備えていること

教育課程編成・実施の方針

学士（図書館情報学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

三つの主専攻に分け、知識科学主専攻では「人間」、知識情報システム主専攻では「技術」、情報資源経営主専攻では「社会」をキーワードに教育を行います。どの主専攻においても幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開します。

順次性に関する方針

1年次では、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システムなどについての概論や、プログラミング入門などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術を学びます。2年次では、1年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。3年次では三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次では、研究室に所属して卒業研究を行い、論文を執筆します。

実施に関する方針

科目数を厳選し、その多くを必修とすることですべての学生が一定水準以上の文理融合型の基礎を身につけるよう配慮しています。各年次に必修として演習・実習を配し、応用的・実的な文脈で総合的に理解する仕組みを提供しています。また、図書館や企業における「インターンシップ」及び海外研修科目として「国際インターンシップ」を実施しています。

学修成果の評価に関する方針

学類が開設する個々の科目においては、到達目標とそれに対応した評価基準をシラバスに明記し、科目の到達目標の達成を保証するよう単位を授与します。

成績評価を厳格化・透明化するために、成

績分布の目標値を定めるとともに、科目ごとの成績分布を公表します。

教育課程全体では、学位授与の方針に記載した知識・能力を獲得できるよう卒業要件を構成しています。

特色

先輩が色々な相談にのってくれる「春日ラーニングcommons」を図書館情報学図書館に設置しています。ここでは履修計画の立て方、学生生活の過ごし方、授業で出された課題のヒント、レポートの書き方、図書館の使い方などが教えてもらえます。

「組み込み技術キャンパスOJT」や「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク(enPiT)」ではシステム・ソフトウェア開発の実践的教育も受けることができます。

カリキュラムの構成

